

なんだ!? 入れ物なんだ!
 ~鑑賞で情報を読み取り その後の表現に必要な考え方を明確化させる学習のあり方~

図画工作科 第4学年
 金沢市立伏見台小学校 教諭

1 事例の概要

「確かな学力」の育成をねらい、テーマを「意欲的な学習の姿」の成立として取り組んだ。これは単に活発な学習の姿をめざすだけのことでなく、課題に追求的に取り組みながら学習内容をしっかり獲得する姿をめざすものである。また、図画工作科における PISA 調査の読解力（参考文献：初等教育資料No.808 P2~3 文科省）を育成する指導の研究としても取り組んだ。

本事例は、作例鑑賞の話し合い<情報の取り出し>が、その後の表現を追求するための新たな造形的な見方考え方を獲得すること<解釈>となり、次時からは、獲得された見方考え方が表現を追求する視点となって働き<熟考・評価>、表現の基礎基本に関するねらいを達成できるかという研究である。追求的に学習する中で認識と表現が両立して「意欲的に学習する姿」が成立したか、すなわち「確かな学力」となったかを考察した。

A-1 事例の概要

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・<関心、態度>入れ物には見えない置物をつくることに関心を持ち、筒を立体的な楽しい形にすることを楽しむことができる。
- ・<発想や構想の能力>差し込みができる筒の形をもとにしてつくりたいものを考え、楽しい美しい立体になるように加える部分やその形を考えることができる。
- ・<創造的な技能>厚紙の折り方（おりすじで）や丸め方など厚紙の扱いができるとともに、思いに合ったつくり方をして形よい成形や丈夫な接合ができる。
- ・<鑑賞の能力>部分をつける場所やつくり方に関心を持って作品のつくり方のよさを味わうことができる。

(2) 指導上の工夫点

本題材で獲得させたい見方考え方は次のAとBである。

A 部分を加える場所：どこから見ても部分がある表現をするとよい

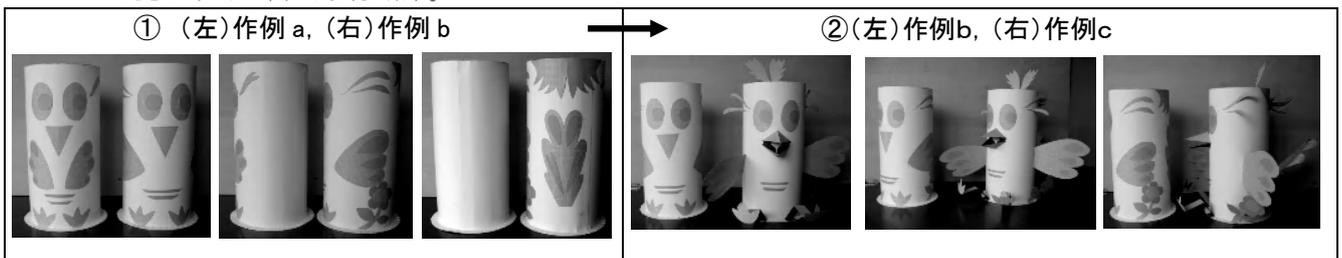
- ・ある方向から見ると何もない（片側から見て表現するだけで平面的）のはさびしい。
- ・どの方向から見ても、もようや部分が見えて楽しい。

B 部分のつくり方：部分は（できるだけ）基本の形からとび出るように加えるとよい

- ・（平面的に貼り絵のように加えて）全体がほとんど基本の形（筒）のままではさびしい。
- ・基本の形からとび出る形（立体的に加える形）が多く、全体が基本の形のままではなくものの形をしていると楽しい。

この見方考え方を獲得させるために作例鑑賞をさせた。この時の工夫は次のとおりである。

- ・子どもが興味を持って見るように、視覚的に楽しい三つの作例 a, b, c を作成して提示する。
- ・子どもが比較した場合にそれらの違いやよさに気づきやすいように（「情報の取り出し」のしやすさと 後の「解釈」のしやすさ）、象徴的で互いに対照的な表現にし、効果的な順番や見せ方で提示する（下写真参照）。



- ・自分の気づきや考えを明確にするために、しっかり見る時間と思いを言語化する場を設ける。

B-1 実践の内容

B-2 指導法の工夫

3 指導の実際

学 習 活 動	指導上の留意点	評価〈観点〉(方法)
<p>1. 前時における題材の課題を確かめる 「基本の形に部分を加えて 楽しい置物をつくろう」</p> <p>2. 題材の課題に取り組む時に大切なことを考え合う { 部分を加える時に どうすれば楽しい置物になるか 考えよう </p> <p>①作例提示1(作例 ab の比較)を鑑賞し、気づきや考えをワークシートにメモしたあと話し合う。 ②作例提示2(作例 bc の比較)を鑑賞し、気づきや考えをワークシートにメモしたあと話し合う。</p> <p>3. 大切なことをまとめて次の製作の課題を持つ { 話し合ったことをもとにして 気をつけることを まとめよう </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 部分を加える時に大切なのは、どの方向から見ても楽しくなるように、前だけでなく横や後ろにある部分をいろいろ考えることと、できるだけ部分は基本の形からとび出るようにつくって加えること。 </div>	<p>表現で大切な見方考え方を具体的に認識できるように、順序立てて対照的な作例を提示し、視覚的によさをとらえながら考えがまとめられるようにする。</p> <p>表現で大切な見方考え方をまとめやすいように、板書やワークシートを工夫しておく。</p>	<p>比較によって思いや考えを持っている。 <情報の取り出し> (ワークシート 発表)</p> <p>話し合いをふり返って 「部分を加える時に大切なこと」をまとめている。 <解釈> (ワークシート)</p> <p>AとBに関して述べ、立体的な表現にすることだと認識されている。 <鑑賞> (ワークシート)</p>

C-1 指導案

C-2 評価計画

C-3 単元計画

4 成果と課題

(1) 成果

A, B の見方考え方は鑑賞により子どもに認識され、表現に生かされていったことがうかがわれた。このことを、ねらい達成の判断基準をもとにして評価したデータをもとに以下に示す。

●A B について特に指導がなかったアイデアスケッチ段階では、A B についての意識は次のようであった。

- ・全員が正面から見ただけのスケッチであり、(アイデアスケッチなので)簡略な表現をしていた。
- ・すでにA B が少しながらも現れている子どもは34%(比較的現れている6%+少し現れている28%)。
- ・そのほかの子ども全てはBが現れず、部品を平面的に貼り付ける考えであり、全体の形が筒のままの状態であった。

●鑑賞後の子どもの様相(解釈)は、鑑賞の記述やまとめの記述から次のようであった。

- ・Aを感じ取れた…77%(感じ取れた…60% おおむね感じ取れた…17%)
- ・Bを感じ取れた…100%(感じ取れた…97% おおむね感じ取れた…3%)

●鑑賞後は表現活動となり、最終時の表現の状態(熟考・評価)は次のようであった。

- ・Aは現れた…97%(現れた…79% おおむね現れた…18% 未完成で現れなかった…3%1名)
- ・Bは現れた…100%(現れた…82% おおむね現れた…18%)

(2) 課題

上記のように、作例比較によってBの重要性はよく感じ取られ、表現にも生かされたが、AについてはBよりも低くなった。鑑賞では顕著で、考察すると次のようなこととなる。

Aにおける鑑賞による解釈では記述表現の問題があった。それは、情報の取り出しの時に「前だけではなく裏にも上にも部分がある」「どこから見ても部分が見える」ということはしっかり意見が出たが、それを「たくさん部分をつくるとよい」というような安易な言葉でまとめた子どもを不正確な解釈(Aは加える場所のことであり数のことではないから)と評価し、それが23%だったからである。このような指導後の評価で問題となったことは、次時の指導で補った。

今後の課題としては、情報の取り出しや解釈の場で、個々の言葉が共有化されたかを十分確認することがあげられる。また、注意深く対象を見る態度とともに、安易な言葉に気をつけるなど注意深く言語表現する態度を育て、思いを少しでも的確に伝えられるようにすることも大切であろう。

D-1 考察

D-2 表現の実際